

1536年1月 メノー・シモンズ、司祭を辞めて再洗礼派に加わる。



メノー・シモンズ

ミュンスター事件などで散らされたり、この事件の故に非難を受け、追放や様々な迫害や傷を受けた再洗礼派の人々を訪ねて信仰を導く。

メノーの徹底した聖書信仰と平和主義、神から与えられた司牧的賜物により東西フリースランド（オランダ）を中心に伝道を展開。本来の再洗礼派の教会（ゲマインデ）が形成された。

この後、メノーの信仰の導きに従う平和的再洗礼派（アナバプティスト）は、メノー派（メノナイト）と呼ばれるようになる。

迫害の中で、オランダ、ドイツ、ポーランド（プロシアにて1540～1790）、ロシアへ

（1789～）移住して行きました。

ロシアのウクライナなどに定住したメノナイトの人々は、周囲からの世俗の影響を受け、酒に酔うもの、兄弟間の争い、信仰の低迷をきたしていました。その様な時に1848年からメノナイト居住区（コロニー）などで、ドイツ敬虔派の信仰の流れを汲む、エドワード・ウェストによる宣教大会などの働きで大きな霊的覚醒（リバイバル）が起こり、祈りと神のみことばの学びのために小さなグループによる集まりがあちこちに始まりました。

霊的に覚醒し、新生の確信をもった兄弟たちは、教会の長老たちに他の人々とは別に聖餐式を執り行ってくれるようにと願ったのです。キリストに倣って聖い真実な信仰と生活を求めた人々は、1859年の11月の日曜日に集まり、主の十字架の死を心に深く覚え聖餐式を持って散会しました。このことから教会からの激しい譴責、除籍や社会的追放等が起こり、兄弟たちは各コロニーのメノナイト教会から脱会することを余儀なくされたのでした。

### ● 1860年 1月6日 メノナイト・ブレザレン教会の成立

1860年1月6日、メノナイト・ブレザレン教会の「創立委員」の会合が持たれ、「脱会」の文書が注意深く見直され、その文書を受入れることが承認されました。午後から夜にかけての時間は全て祈りに費やされ、その後、18名の家長が署名し、メノナイト教会の長老たちのもとへ提出されました。

ここに、私たちの「メノナイトブレザレン教会」が成立したのです。

## 宗教改革と初代教会の復元

<参考資料 (No.1)>

—「祈りの家」の復元に取りかかろう！—

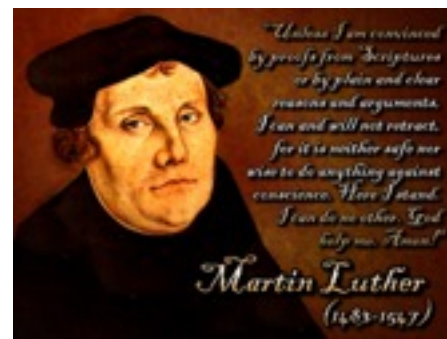
日本メノナイトブレザレン教団 牧師：井草晋一

### ●[宗教改革とメノナイト教会の誕生]

<改革の道備えをした人々>

- ・14世紀：トーマス・ア・ケンピス/ウィクリフ/チョーサー等
- ・15世紀：フス/サヴォナローラ/エラスムス/ヒメネス等

1517年 10月31日 マルティン・ルター [ドイツ/ザクセン]



贖宥の効力に関する「95箇条の提題」を書いた羊皮紙をヴィッテンベルク城教会の門扉に掲示する。

----> ルター：聖人の功德を蓄積している宝庫などのようなものはない。（のちに、「煉獄（れんごく）」の存在そのものも否定。）罪の赦しや処罰の軽減に対する代償金などはない。人は、信仰によって救われる。（\*信仰義認/聖書のみ、信仰のみ）

\*贖宥（しょくゆう）：カトリック教会で、信徒が果たすべき罪の償いを、諸聖人（聖者）の特別な功德によって教会が免除すること。免償。

・カトリック教会の教えにある「煉獄（れんごく）」に、ある期間の年月過ぎさなければならぬ死者を早く救い出すために、免罪符を買うことによって、「贖宥」が得られると人々は教えられ（宣伝）された。

\*「免罪符」---- 死んだ人が「煉獄」で過ぎさなければならぬ期間を、教皇の権威によって、短縮することを認める認可状のこと。教皇がブランデンブルクの司教アルブレヒトに販売の許可を与えた。売上金の半分をアルブレヒトに与え、半分をローマの聖ペテロ聖堂を建築するために教皇庁に上納することとした。

1519年 1月 ウルリッヒ・ツィングリー [スイス/チューリッヒ]  
宗教改革を開始する。マタイ福音書を連続講解する。



----> 信仰（宗教的単位）と政治（政治的単位）の領域を一致させた、地域住民全てを含んだ教会（ゲマインデ）観を旨とした改革運動を進めた。チューリッヒ市当局との緊密な連携で改革運動を進めようとした。

1524年 4月 チューリッヒ最初のプロテスタント聖餐式 執行。

1525年 1月 21日 最初の信仰告白に基づく洗礼

「初代教会への復帰」を旨とした再洗礼派（アナバプテスト）運動。



[コンラート・グレーベル] [フェリックス・マンツ] [ゲオルグ・ブラウロック]  
フェリックス・マンツの母の家にてお互いに洗礼を行う。[チューリッヒ]

### ●再洗礼派教会の誕生。

----> 政治的領域とは関係のない、真のキリスト者たる少数者のみ

から形成される教会（ゲマインデ）観に基づく「初代教会の復元」。

\*当初、ツィングリーのもとで改革運動に携わっていた青年たちだったが、聖書が教えていない幼児洗礼に疑問を抱き、信仰告白して自ら決意して教会に入ろうとする人々だけ授けられるものであると主張。

また、世俗の力で改革を進めようとするツィングリーに対し、聖書に基づいた改革の遂行を強く求め、チューリッヒにおける数回の公開討論を重ねていた。最終的に袂を分つこととなり、1/21 に信仰告白による洗礼を受け合い、新しい教会（ゲマインデ）の創立となった。

\*「信仰に基づく洗礼」、「教会と国家の分離（政教分離）」、戦争の否定（平和主義）、宣誓、誓約の拒否（「汝、誓うなかれ」）、他。

1526年 3月 チューリッヒ市当局、再洗礼に対し「溺死刑」を布告。

（紀元6世紀の古い「ユスティニアヌス法」にてらしての処罰）

コンラート・グレーベル病死（8月頃）。父のヤーコブ・グレーベル、ツィングリーにより処刑される。

1527年 1月 5日 マンツ 溺死刑に処せられ、ブラウロックは追放刑となる。

2月 24日 再洗礼派の信仰告白の「シュライトハイム信仰告白」が、ミハエル・ザトラーによって執筆され採択される。8月には、約60名の再洗礼派の指導者たちの会議「殉教者会議（\*）」が開催。[（\*）参加した再洗礼派の指導者のほとんどが後に殉教]

1531年 10月 11日 ツィングリー戦死。

ハプスブルク=カトリック五州とチューリッヒ（改革派）との戦い（第二次カッペル戦争）にて、市参事会員共々に戦死。

1533年 2月~1535年 6月 ミュンスター事件（\*）が起こる。

（\*）自らの信仰と信念の故に、ミュンスターに集結した過激な再洗礼派が、ルター派との抗争や市参事会選挙で全議席を独占したことで政治的支配権を確立。ライン流域の緒侯会議、ルター派、カトリックの司教軍との間で戦闘を交え、最終的に 1535年 6月、攻囲軍により占領され、再洗礼派の敗北で終結。



1536年 ジョン・カルヴァン ジュネーブの改革に着手

「キリスト教講要」初版出版。スイスのジュネーブにて働きを開始。（改革派/長老派）1541年の帰還後さらに改革を進める。